



陸支密

大臣ヨリ大藏大臣及會計検査院長へ通牒

松浦部隊  
輸重兵隊浦本聯隊外一部隊ノ出納官吏其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失  
シタルニ付別紙ニ通及通牒候也

陸支密第四七九一號

昭和三年三月廿七日



一、被害ノ日時及場所

日時 昭和十三年八月一日

場所 江西省彭澤縣彭澤

二、被害ノ原因タル事實ノ狀況

松浦部隊本部分任資金前渡官吏陸軍主計中尉平井泰二所屬輜重兵聯隊分任官陸軍主計少尉田宮淳雄取扱復分任官陸軍主計伍長石田熊男ハ昭和十三年八月一日船内勤務者ノ給養連絡ノ爲門橋ニ乗船御用船ニ至ルヘク航行中風波高ク門橋ニ浸水甚シクシテ御用船約五百米ノ位置ニ於テ突如大傾斜ヲナシ爲ニ乗船セル兵馬諸共揚子江ニ顛落セルカ石田伍長ハ完全武装ナシアリ加フルニ水泳ノ覺無ク普關中軍資金ヲ收藏セル背囊ハ離脱沈下セリ

三、被害金額

金五百九拾壹圓貳拾錢

四、被害事實發見ノ動機

御用船ヲ去ルマ五〇〇米ノ位置漂流中ノ石田伍長ハ救護ニ赴キシ  
 同聯隊門橋ニ依リ救助ヲレ辛フシテ生ヲ得卽時門橋ニテ約一時間  
 ニ亙リ流失セル方面一帯ヲ搜索シタルモ遂ニ發見スルヲ得ス  
 其  
 其他事項

事情前述ノ如クニシテ全然不可抗力ニ基因シ亡セルモノナルヲ  
 以テ本件出納官吏ニ對シテハ其ノ責ヲ逋及セス

一、被害ノ日時及場所

日時 昭和十三年十一月七日午後一時三十分

場所 山西省介休南西方内封古廟前

二、被害ノ原因タル事實ノ狀況

谷口部隊本部分任資金前渡官吏陸軍主計大尉對馬源八郎所屬同部隊分任官陸軍主計中尉村山周三郎ハ石炭資源調査、調達ノ爲介休附近へ出張中昭和十三年十一月七日午後一時頃介休出發義棠嶺ニ至ル道路上介休ヲ距ル概ネ二軒半前項地點ニ於テ敵襲ヲ受ケ戦死シタリ而シテ當日懷中ニ携帶セシ前渡資金千六百圓ハ敵ノ爲掠奪セラレタルモノト認メラル

三、被害金額

金壹千六百圓也 中國聯合準備銀行券

右金額ハ臨汾出發時ニ携行セシ前渡資金壹萬五百圓ノ内介休守備隊衛兵所ニ保管ヲ委託セシ金櫃行李ノ現存高金八千九百圓ヲ控除

セル額ニシテ所要經費支拂ノ爲懐中携帯セシモノナリ  
四 平素ニ於ケル現金管守ノ方法

出張ニ際シ所要ノ前渡資金ハ之ヲ金櫃行李ニ收藏シ介休到着後直  
ニ同地守備隊衛兵所ニ保管ヲ委託内一部ヲ携帯セシモノナリ

0390

手 書 科	部	課	係
-------------	---	---	---

中支派遣軍經由  
第十一軍經由

百六經計第三一號

出納官吏保管現金亡失ニ関スル件報告

昭和十三年十一月二十五日 第百六師團長 松浦淳六師團長

陸軍大臣 板垣征四郎殿

首題ノ件陸軍會計事務規程第九十五條ニヨリ別紙調書ノ通報ス

3.12.12  
陸軍大臣

3.12.7  
陸軍大臣

13.12.12  
陸軍大臣

之印

(日本標準規格 B-6)

亡失金調書

第百六師團司令部

亡失年月日

昭和十三年八月一日

亡失者

第百六師團經理部 分任資金前渡官吏

陸軍主計中尉

平井泰二 所屬

韃靼兵第百六聯隊 第二中隊 分任官

陸軍主計少尉

田宮淳雄 取扱

複分任官陸軍主計伍長 石田熊男

亡失金額

金五百九拾壹圓貳拾錢 (科目臨時軍事費)

内譯

邦貨貳百四拾壹圓貳拾錢

金種區分拾圓紙幣<sup>二枚</sup> 五圓紙幣<sup>二枚</sup> 陸軍發給貨<sup>二枚</sup> 拾錢白銅<sup>二枚</sup>

軍用手票 參百五拾圓

金種區分五圓<sup>三枚</sup> 壹圓<sup>二枚</sup>

亡失場所

支那江西省彭澤縣彭澤



## 亡失理由

第六百六師團轄重兵第六聯隊第二中隊陸  
 軍主計伍長石田熊男ハ昭和十三年七月  
 十六日聯隊本部ト共ニ先發セル東島小隊、  
 複分任官トシテ行動中ナリシカ聯隊ハ師  
 團ニ追及スヘク昭和十三年七月三十一日  
 江西省彭澤ヨリ諸材料及馬匹塔載ヲ開  
 始シ翌八月一日ニ及ヘリ

八月一日〇八時〇〇石田主計伍長ハ船内  
 勤務者ノ給養連絡ノ爲第一回ノ門橋  
 ニ乗船シテ棧橋ヲ出發御用船大日丸  
 ニ至ルヘク航行中ナリシカ當日ハ天  
 候不穩ニシテ風波高ク特ニ降雨後ノ  
 揚子江ハ濁流渦ヲ巻キ増水甚シク時々  
 門橋ニ浸水シツ、アリシカ大日丸ノ程近ク

約五米、位置ニ於テ門橋ハ浸水甚シキ爲  
 突如急角度ノ大傾斜ヲナシ乗船シテ  
 リタル下士官兵、全部及馬匹共揚子  
 江ニ顛落スルニ至レリ  
 當日石田主計伍長ハ完全武装、儘水  
 中ニ顛落セルカ素テ水泳ノ覺無キ  
 爲苦悶中背囊ハ重量、爲離脱沈下  
 スルニ至レリ  
 斯クテ石田主計伍長ハ漂流シツ、アル桐  
 包ニ鮪リテ漂流中顛落後約十分大日  
 丸ヲ去ル約千五百米、位置ニ於テ折柄救  
 護ニ來援セル同聯隊馬廠、門橋ニ依  
 リテ救助セラレ辛クシテ生ヲ得タル  
 者ナルカ當該背囊ニハ分任官ヨリ携

陸軍

追テ本件報告遅延セルハ分任官ト復  
分任官 遠隔勤務ニアリテ連絡不能  
且度重ナル作戦行動ノ爲ニ依ル

行軍資金トシテ豫メ前渡ヲ受ケ携行  
ナシイタル金五百九拾壹圓貳拾錢也ヲ  
收藏シアリタル爲即時馬廠ノ門橋  
ニテ約一時間ニ亘リ流失セル方面ヲ  
搜索ナシタルモ發見スルヲ得ス遂  
ニ該金額ヲ亡失スルニ至レルモノナリ  
此ノ不祥事、爲兵四名馬匹四頭ハ溺死  
スルニ至レリ  
斯ノ如クキ状況ニシテ行動中全然不  
可抗力ニ基因シ亡失セルモノトス

（納谷良・京東）

陸軍部  
陸軍大臣  
陸軍省

0395

中支派遣軍經由  
第十一軍經由

百六經計第二三號報

金櫃檢定書提出ノ件

昭和拾參年十二月廿五日

第百六師團經理部長廣田明

陸軍大臣板垣征四郎殿

十一月二十五日百六經計第二一號報告ニ  
係ル現金亡失出納官吏ニ對スル金櫃檢  
定書陸軍會計事務規程第九十五條ニ  
ヨリ別紙ノ通提出ス

課	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
中	中	中	少	少	少	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
田	岡	金	野	吉	川	車	奈	奈	奈
田	田	織	野	川	川	車	奈	奈	奈
田	田	織	野	川	川	車	奈	奈	奈

13.12.12  
陸軍部  
經理部  
廣田明  
1913

(日本標準規格 B-5)

科		目		摘要	金額
陸軍臨時軍事費		人件費		前渡受	600.000
〃		〃		俸給支拂額	880.0
〃		〃		差引残	591.200
陸軍兵第一〇六聯隊第二中隊 分任官 陸軍主計少尉 田宮淳雄 取次 複任官 陸軍主計伍長 石田熊男					
昭和十三年八月二日検査了 検査員 陸軍兵第一〇六聯隊長 瀨川孫兵衛					
備考					
昭和十三年八月一日七失金五九一.二〇〇。 (本領二四三.〇〇〇) アリテ現金保管高ナシ 本件ハ複任官按ニシテ整理簿省略シアリタル爲現金支納簿ニ依リ本 書式ニヨリ本業調製檢定ス					

陸軍

納本廣°版大°七°三十和昭

0397 2680

谷經計第一〇九號

出細官更戦死前渡金亡失ノ件報告

昭和三年十月十四日 第百八師團長谷口元治郎

征四郎殿

且調査ノ為ニ休附也ハ出張中十月七日

於テ戦死セル部々員陸軍主計中尉  
村山周三郎ノ保管携行セル前渡金亡失ニ係ル調査ノ  
状況左記ノ通り報告ス

左記

一、保管責任者

第百八師團分任資金前渡官更陸軍主計大尉對馬源八郎所屬

第百八師團經理部分任官陸軍主計中尉村山周三郎

二、被害ノ日時場所

昭和三年十月七日午後一時三十分山西省休南方面内封古廟前

八五〇



谷經計第一八九號

出納官吏戦死前渡金亡失ノ件報告

昭和三年七月三日 第百八師團長谷口元治郎

陸軍大臣板垣征四郎殿

石炭資源調査調査ノ為ニ休附近へ出張中十一月七日  
休南方西内封ニ於テ戦死セル為ニ部員陸軍主計中尉  
村山周三郎ノ保管携行セル前渡金亡失ニ係ル調査ノ  
状況左記ノ通り報告ス

左記

一、保管責任者

第百八師團分任資金前渡金更陸軍主計大尉村山周三郎所屬  
第百八師團經理部分任官陸軍主計中尉村山周三郎

二、被害ノ日時場所

昭和三年七月三日分山内省休南方西内封古廟前



## 三、被害ノ原因及事實ノ状況

昭和十三年十月三日師團命令ニ依リ石炭蒐集班ニ之ニ  
 關スル事務連絡ノ爲メ休及太原ニ出張ヲ命セラレ前  
 日ヨリ線越所持ノ金五百圓ノ外ニ十月三日現金壹萬  
 圓ノ前渡ヲ受ケ之ヲ金櫃行李ニ収藏携帶翌四  
 日臨汾出發同日メ休到着後右金櫃ハ直ニ同地準備  
 隊本部衛兵所ニ保管ヲ依託セリ次テ十月七日午後  
 一時頃義棠鎮附近ノ炭坑(白存村及旺村)開發其他  
 ニ關シ打合ノ爲メメ休ニ来リテ第一軍經理部員於久田  
 大尉ノ一行三名ト共ニ該炭坑及義棠鎮附近石  
 炭積込状況視察ノ爲メ休出發義棠鎮ニ至ル道  
 路上メ休ヲ距ル概シニ約半ノ地點西内封ノ古廟前  
 ニ於テ敵襲ヲ受ケ戦死セルモノニテ當時ノ状況ヨリ  
 判断ニテ携行中現金敵ノ爲掠奪セラルト認ム

(納谷興・東京)



四、被害金額

現金 壹千六百圓也 中國<sup>陸</sup>運合準備銀行券  
 石金額ハ臨沅出發時ニ携行セリ前項記載ノ金壹萬  
 五百圓ノ内ハ休守備隊本部衛兵所ニ保管ヲ依  
 託セリ金櫃行李収藏高金八千九百圓ヲ控除セ  
 分ニテ右金額ハ当日所要經費支糸ノ為懷中携  
 帶セリ

五、手素ニ於ケル現金保管ノ方法

責任者ハ出張先ニ於テ現地物資調査ノ為現金  
 ヲ前後所持セルモノニテ金櫃行李ニ収藏ハ休守  
 備隊本部衛兵所ニ保管ヲ依託由一部ヲ携帶セルモ  
 ノニテ現金保管ノ就テハ周到ナル注意ヲ拂ヒタル  
 モナリ

六、被害ニ對スル所置

責任者ノ代理官トシテ部員陸軍主計中尉加藤金次ヲ  
尚検査官トシテ部員陸軍主計大尉對馬源八郎ヲ  
任命金櫃検査ヲ施行セリ

七、責任者ニ対スル所置

代理官ヲシテ計算書ヲ作成提出セシメ會計  
検査院ノ判決ヲ受ケシム

(納省廳・京東)

0402

昭和 / 3 年 陸軍臨時軍事費 検査定書 試算表  
 11 月 9 日 第八師團經理部

借 用	陸軍臨時軍事費	貸 用
	北支事件費	1,500,000
	人 件 費	
	俸 給	
	旅 費	
	備 給	
	諸 手 當	
	物 件 費	
	需 品 費	
	郵 便 電 信 費	
	糧 抹 費	
	被 服 費	
	兵 器 費	
	馬 匹 費	
	演 習 費	
	患 者 費	
	運 輸 費	
	築 造 費	
	接 待 費	
	雜 費	
	軍 用 鳩 諸 費	
	軍 用 犬 諸 費	
	機 密 費	
1,600,000	亡 失 金	
	預 託 金	
2,900,000	現 金	
	支 那 貨 幣	
1,050,000	合 計	

検査員 陸軍主計大尉 野原八郎

陸軍主計中尉 加藤 金次

昭和 3 年 11 月 9 日 検査了